

きたきゅー

通巻第60号

北Qみらい NO.18



【発行】

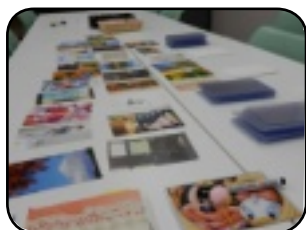
〒806-0021
北九州市八幡西区黒崎3丁目15-3
コムシティ5階
北九州市立聴覚障害者情報センター

【連絡先】

TEL 093-645-1216
FAX 093-645-3335
E-mail
kitakyu-video@wel-tobata.jp

報告1：聴覚障害者情報センターのつどい

平成29年9月3日(日)



黒崎コムシティ5階の西部障害者福祉会館にて「聴覚障害者情報センターのつどい」が開催されました。スタンプラリーでは、盲ろう者と折り紙やオセロゲームを楽しんだり、ろう者の指導による祇園太鼓体験、筆談ノート作りや牛乳パックでの帽子作り、字幕付けなどの体験コーナーを開催しました。ろう者が進行の×クイズでは手話も覚えていただきました。



100名近い参加者から「手話を身近に感じた」「大学でも手話を学びたい」「ろう者の太鼓演奏が素晴らしい」「点字も楽しくできた」「いろいろな体験ができて楽しかった」「来年も来たい」などなど、たくさんのコメントをいただき、大盛況な一日でした。



情報1：情報提供事業3「終活セミナー2017」

平成29年11月13日(月)

九州国際大学地域連携センターとの共同事業である「終活セミナー」を今年も開催します。テーマは「私が死んだら～お墓のこと～」です。

日時：11月13日(月) 13:30～15:30

場所：西部障害者福祉会館

講師：神田 紀久男(かんだ きくお)氏(上級終活インストラクター)

昨年は人生の終わりを考えてそのために“今、何を行い何を大切にすべきなのか”の内容での講演でした。

参加された方からのアンケートでは

- ・一日一日を大事に過ごしたいと思います。家族も一緒に楽しみたいと思っています。
 - ・自分の葬式、家族のこと等いろいろ考えさせられました。少しずつ準備できたらいいと思っています。など「参加して良かった、また聞きたい」との意見が多数あり、今年も開催が決まりました。
- “自分らしく生きるために”今、終活を一緒に考えましょう。



平成28年度終活セミナーの様子

紹介1：「UD Cast」アプリ紹介



映画・映像・放送の「音声」をスマートフォンなどの携帯端末のマイクが拾うことで、その端末を通じて、字幕や手話の表示、音声ガイド再生を行うことのできるアプリです。データをダウンロードした後は「無線LAN」や「ネット環境」を一切使わないため、安定的に使用できます。今回は、機器の準備の流れを見てみましょう。

次回はアプリを実際に試してみ、詳しい内容をお伝えする予定です。

事前準備

「メガネで見る字幕ガイド」「スマホで聴く音声ガイド」で映画鑑賞をするためには、アプリをダウンロードした機器が必要です。携帯端末（スマートフォン・メガネ型端末等）に無料アプリ「UDCast」をダウンロード。右のようなQRコードからもダウンロードできます。



Android



ios

動作確認

機種によっては未対応の場合があるため、アプリ内「UDCast」の[使い方ガイド]に沿って使用端末の動作確認を必ず行う。

観賞チケットの購入

インターネット窓口、もしくは劇場窓口にて鑑賞チケットを購入。機器が使用できる作品には、各劇場ホームページ等に対応マーク（音声・字幕ガイド）が表示されます。事前にご確認ください。

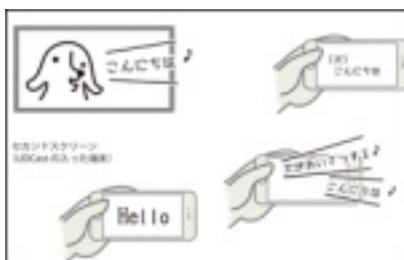


音声ガイド



字幕ガイド

映画観賞前にアプリを設定する



スマートフォン等のアプリにより字幕や音声ガイド、手話映像、多言語などを表示・再生できます。

メガネ型端末により字幕や手話が空間に浮かんで見えます。



報告2：聴覚障害児(者)コミュニケーションワークショップ 平成29年7月1日(土)

コムシティ7階にある北九州市立子どもの館 子どもホールに聴覚障害者と関係者合わせて約80名が集まり、初めての「コミュニケーションワークショップ」を開催しました。

実写版『聲の形』並びに『ろうを生きる・難聴を生きる』のDVD上映を行なった後、このイベントの大きなテーマである「いじめ」や「障害者差別」について、4つのグループに分かれて話し合いました。その内容をもとに、聴覚特別支援学校教師、難聴児教育に関わった教師のお二人から、聴覚障害児を取り巻く現状や課題についてのお話と総評をいただきました。

班ごとの話し合いでは、自分の体験話や素直な意見も出され、いろいろな話が飛び出して場の雰囲気盛り上がり、とても良かったです。やはり少人数グループで話しやすい、打ち明けやすい効果があったのではないかと思います。

アンケートにもたくさんのご意見をいただき、今後の参考になり、とても有意義なワークショップでした。



実写版『聲の形』の一場面



グループに分かれ円座で話し合い



お二人の教師によるトークの様子

報告3：情報提供事業30「フラダンス」

平成29年7月24日(月)

「『フラダンス』女性のためのしなやかな体づくり」

今回は女性を対象にしたものでした。参加者は全員で15名でした。初めは恥ずかしそうな様子でしたが、徐々に熱が入ってきて講師が持参してきたフラダンスのスカートをはいて、日頃の運動不足を感じながらも楽しそうに踊っていました。曲目は「見上げてごらん夜の星を」とフラダンスの曲合わせて3曲を習いました。講座が終わる頃には「フラダンスを続けていきたい!」との声もありました。



先生の動きを見ながら踊ります

報告4：盲ろう者社会参加講座「バルーンアート」

平成29年9月16日(土)

バルーンアートを知っていますか? 長細い風船を膨らませて、丸めたりねじったりして作ったイヌやウサギなどの飾りです。今回は「バルーンアートに挑戦! ~みんなが楽しめる技を身につけよう~」をテーマに、東部障害者福祉会館にて盲ろう者3名がバルーンアートに挑みました。講師は、手話の会会員であり、療育センターの子どもたちへバルーンをプレゼントするボランティア活動をしている瀧口公美(たきぐちくみ)さん。

最初は、「コレ、なーに?」と題して、講師が作ったバルーンを盲ろう者が触って何かを当てるクイズです。バルーンアートを初めて触る盲ろう者もいましたが、ハートや花、イヌなど、全て当てることができました。次に、材料である風船の歴史や種類(素材や形の違い)のお話です。盲ろう者からは「この小さな風船でも人は飛べるのか?」など楽しい質問も出ていました。そして、実際に風船の膨らませ方、しばり方、ねじり方など一つずつ順番に教わり、まずはハートができあがり! 次に、専用ものさしを使ってイヌも完成しました。最後に参加者同士、お互いの作品を交換して鑑賞しました。他の人の作品を触りながら、「自分のイヌだけ尻尾が長いなあ」「私のよりハートの形がキレイ」と言いつつも、みなさん自分の作ったバルーンアートに愛着を持たれているようでした。自分の作品と専用ものさしは、お土産に持ち帰ってもらいました。ご家族や身近な人たちに披露していることと思います。

参加者だけでなく講師と通訳者も笑いながらの、あっという間の楽しい3時間でした。



まずは細長い風船を膨らませます



物差しと見本を参考にねじる



いろいろなイヌの出来あがり

情報2：日本語字幕付き上映日の映画案内(10月・11月)

『**亜人**』 1日1回以上上映
字幕上映日
10月22日(日)~10月25日(水)

『**ミックス。**』 1日1回以上上映
字幕上映日
11月5日(日)~11月8日(水)




お問い合わせ
T・ジョイリバーウォーク北九州
〒803-0812
北九州市小倉北区室町1-1-1
リバーウォーク北九州デコシティ4F

連絡先
TEL:093-573-1569
FAX:093-573-1653
MAIL
kitakyushu@t-joy.net

報告5：派遣事業の件数 出-タ (専任手話通訳者、盲ろう者通訳・ガイドヘルパー、要約筆記者)

専任手話通訳者

	個人	団体	計
7月	231	4	235
8月	232	6	238
9月	250	5	255
総計	713	15	728

盲ろう者通訳・ガイドヘルパー

	個人	団体	計
7月	17	0	17
8月	17	0	17
9月	18	0	18
総計	52	0	52

要約筆記者

	個人	団体	計
7月	9	4	13
8月	11	4	15
9月	8	4	12
総計	28	12	40



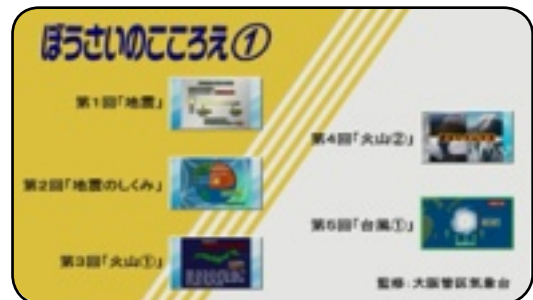
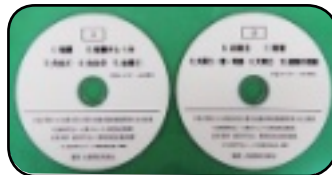
ビデオ制作のコーナー



紹介2：新入荷DVD (手話・字幕付き)

「目で聴くテレビ」を放送している障害者放送通信機構から情報DVD (2枚) 寄贈

公益財団法人大阪コミュニティ財団の助成により「手話と字幕がついた映像で防災に関する知識と情報を聴覚障害者に伝える事業」として制作した防災に関する情報DVDです。内容は2015年1月から2016年2月までに「目で聴くテレビ」で放送した番組を基本として制作した作品です。



編集後記：「体育の日」の山登り


体育の日は、各地でいろいろなスポーツイベントが行なわれています。私も連休を利用して家族で2年ぶりの登山へ行ってきました。福岡県糸島市近くの雷山です。前日の雨で道がぬかるみ、初心者向けコース(約2時間)のはずが、4時間かかってしまいました。まだ紅葉には早かったのですが、登山者の服装は黄色や赤色、ピンク色や鮮やかなオレンジ色など色とりどりでした。私は登山用品は靴だけしか持っていませんでしたが...40代に突入し、足腰の負担を

考えて杖を準備。おかげで楽に登ることができました。

登山者を見ていると老若男女、誰でも楽しめるということがよく分かります。義父母も近頃は足腰が弱ってきて、山から遠のいています。それでも秋になると山へ行きたそうな様子。紅葉時期になったら、一緒に高山歩きを楽しもうと計画中です。年を重ねても形を変えながら好きなことを続けていけたら良いですね。



貸出状況の出-タ

	貸出人数	貸出本数
7月	4	10
8月	2	5
9月	9	27
総計	15	42